

智福院

〔神楽岡の南にあり。開基弘法大師〕

本尊虚空蔵菩薩〔秘仏厨子三重にして外に注連を張る。当院は吉田社

遷坐已前より此地にあり〕

〕

西天王社

〔同所本社の下壇にあり、祭神牛頭天王、岡崎天王と一双の社なり。例祭は六月十六日、神輿一基〕

木瓜社

〔西天王の東にあり、例祭八月廿四日、神輿一基〕

春日社

〔同所の北の中壇にあり、祭神は南都春日明神と同じ、神伝は大和名所凶会に見へたり。鎮座は清和帝貞観

年中に、中納言山蔭卿初て勸請し給ふ。又一説には卜部家の曩祖兼延の勸請ともいふ。南都は平安城より行程遠ければ、こゝに移し、皇妃夫人の社参をたやすからんとなり〕

若宮

〔門外のひがしにあり、祭神春日若宮なり〕

勅使塚

〔門前にあり、勅使着座の拜所なり。塚とは土人の口称にて

実は勅使着座壇なり〕

神楽岡神

〔若宮の北の小祠なり。是当所の地主神にして、延喜式神名帳に曰、霹靂神山城国神楽岡に坐すとなり〕

卜部兼俱靈社

〔春日社の巽の山上にあり。後奈良院勅号し給ひて神龍大明神と称す〕

新長谷寺

〔春日社の下壇の地にあり。寺説曰、春日社の神宮寺なりと〕

本尊千手観音 〔立像六尺二寸。元此地は中納言山蔭卿の殿宅なり。彼卿和州長谷寺に詣して千手の像を造らん事を祈

誓す、本尊感応ありて童子と化したまひ、中納言と共に此地に来る。其時かの

本真如堂／涼しさは野山にみつる念仏かな 去来

卿唐土より渡されける梅檀香木を与ふ、童子一千日籠居して靈尊を造立す。是即撰州島下郡惣持寺の本尊なり。其靈地

なるゆへ、後に殿舎を転じて仏閣となし、長谷の観音影向の地なりとて、同尊を造りて新長谷寺と号す。洛陽巡りの第

五番なり〕

吉田泉殿よしだのいづみどの

〔吉田よしだの西北せいぼくに泉殿いづみどのといふ字の田地あり、水石の跡今に残れり。明月記曰、白河行隆辨の宅なりとぞ〕